

農漁村地域における高校生のシビックプライドの醸成要因と将来の定住意識に与える影響

-富山県氷見市に居住する高校生を対象として-

Effects on Civic Pride and Future Settling Attitudes of High School Students in Agricultural and Fishing Village Areas

-Focusing on High School Students Living in Himi City, Toyama Prefecture-

森豪大*・藪谷 祐介**・宋俊煥***
Godai Mori*, Yūsuke Yabutani**, Junhwan Song***

人口減少問題を抱える日本において、Uターン人口増加のための糸口として、都市に対する市民の誇りと定義されるシビックプライドの醸成が注目されている。本研究では、農漁村地域である富山県氷見市を対象に、Uターン施策を行う上で重要とされる高校生を対象にアンケート調査を実施した。その結果、どのような源泉がシビックプライドを醸成し、将来の定住意識を高めるかという一連の流れを明らかにした。シビックプライドの源泉は「魚・海」、「祭」、「公園・広場」、「歴史・文化」の4つの因子で構成され、シビックプライドの構成要素は「参画」、「アイデンティティ」、「愛着」、「持続願望」の4つであることを提示した。また、共分散構造分析の結果、高校生における将来の定住意識は、シビックプライドの構成要素の一つである「愛着」によって形成され、その「愛着」は「魚・海」と「公園・交通」の源泉によって醸成されることが明らかになった。

Keywords: Place Attachment, Regional Revitalization, U-turn, Park, Covariance Structure Analysis

地域愛着, 地方創生, Uターン, 公園, 共分散構造分析

1. はじめに

1.1. 研究背景と目的

地方の人口減少を緩和するための方策の1つとしてUターン人口の増加が考えられる。高校卒業と同時に就職や進学を理由に地元を離れた若者が将来的にUターンすることは地域の持続可能な発展や地域の担い手確保という観点でも重要だと考える。

そのような背景を踏まえ、Uターンの議論において、都市に対する市民の誇りと定義されるシビックプライドが着目されている。シビックプライドは、地域参画、地域アイデンティティ、忠誠的愛郷心、地域愛着の4つの要素で構成されている¹⁾。実際、多くの自治体のシティプロモーション指針において、Uターン人口増加にシビックプライドの醸成が重要な役割を果たすとされている²⁾。

将来的なUターン人口増加を目指すためには、地元を離れる前、地元で生活する最後の期間である高校生の段階でシビックプライドを醸成することが重要だと考える。シビックプライドの醸成要因として、伊藤³⁾は、シビックプライドは都市やコミュニティのもつ何らかのもの・こと・場所などを拠り所にすることが多く、そのようなシビックプライドの源泉（以下、源泉）を市民が関与し磨き上げていくことは、シビックプライドの醸成に繋がるとしている。具体的に源泉は、富山県富山市においては「都市環境」、「食・自然」、「文化・産業」、「交通」といった因子で構成されており³⁾、これらは地域特性で表出する因子の構成が異なることが考えられる。森ら⁴⁾は、人口が17万人程度の富山県高岡市を対象にした調査により、「地域環境」と「文化・産業」の源泉が愛着を高め、その愛着が将来の定住意識を高めることが明らかになった。しかし、単一地域の調査であるため、地域特性や人口規模が異なり、源泉が異

なる他地域においても同様の結果が導出されるかは定かではない。したがって本研究では、農漁村地域を対象に、シビックプライドが将来の定住意識に与える影響を明らかにする。これに加え、高校生が誇りに思う源泉を明らかにし、その源泉がシビックプライド醸成に与える影響を分析する。さらに、富山県高岡市の研究結果⁴⁾と比較し考察することで、農漁村地域である氷見市の特徴を明らかにする。これらにより、農漁村地域におけるUターン人口増加を見据えた、高校生のシビックプライド醸成のための施策に資する知見を得ることを最終的な目的とする。

1.2. 研究対象

本研究は、富山県氷見市を対象とした。人口は2023年8月1日現在42984人⁵⁾で県内6番目の人口規模（15市町村中）である。氷見市は富山県の北西部に位置している。氷見市では全国的にも評価されている「ひみ寒ブリ」をはじめとする豊富な魚介類が氷揚げされているだけでなく、氷見漁港場外市場「ひみ番屋街」には新鮮な海の幸を堪能しに多くの観光客が集まる。水産業だけでなく、氷見牛や米、ワインなどの食資源にも恵まれている。さらに、日本で初めて調査された洞窟遺跡である大境洞窟住居跡や、日本海側最大の前方後円墳である柳田布尾山古墳などの歴史文化遺産にも恵まれている。また、JR氷見線は、経済的な結び付きが強い隣市の高岡市を結び、高校生の都市間の移動手段としての機能を持つ。以上のように、都市環境、食・自然、文化・産業、交通といった農漁村地域特有の幅広い源泉との高校生の接触が想定されることから富山県氷見市を研究対象地域とした。

市内に所在する高校は氷見高校のみである。氷見市に居住する高校生1学年450人の内、180人が地元の氷見高校に進学し、270人が隣市である高岡市内の高校を始めとし

* 学生会員 富山大学大学院人文社会芸術総合研究科 (University of Toyama)

** 正会員 富山大学学術研究部芸術文化学系 (University of Toyama)

*** 正会員 山口大学大学院創成科学研究科 (Yamaguchi University)

た他市に進学する⁶⁾。そのため本研究では、氷見市に居住する高校生を対象とするため、調査対象高校は氷見高校に加えて高岡市の高校も加えて調査を行った。詳細は14.で説明する。

1.3. 既往研究の整理

日本では、シビックプライドの概念は比較的新しいものであり、既往研究の蓄積段階である⁷⁾。伊藤⁸⁾はシビックプライドの尺度を体系的にまとめ、市民に対してアンケートを行い、尺度の検証を行った。これは成人を対象とした調査であるが、中学生を対象としたシビックプライド尺度開発も行われている⁷⁾。さらに、シビックプライド醸成のための方法論の構築に関する研究⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾やシビックプライド醸成の要因を明らかにした研究もある。Uターンに関する研究として、地方出身者のUターン移動に着目した研究¹¹⁾、UUターン人口移動の施策を明らかにした研究が見られる¹²⁾。Uターンと地域愛着の関係を見た研究として、大学生を対象に、地域愛着が地域のシンボルを含めてUターン意向への影響を分析した研究¹³⁾がある。

源泉とシビックプライド及び将来の定住意識の関係を明らかにした研究として、工業都市である富山県高岡市の高校生を対象に行った研究⁴⁾がある。この研究では、「地域環境」と「文化・産業」の源泉が愛着を高め、その愛着が将来の定住意識を高めることが明らかになった。Uターン施策を検討する上で重要である高校生においてシビックプライドと将来の意識の関係を見た研究は見られるが、農漁村地域を対象とした研究は見られない。人口減少が進む地方都市、特に農漁村地域においてシビックプライドとその醸成要因の源泉、シビックプライドと将来の定住意識の関係を明らかにできる点において新規性を有する。

1.4. 研究方法

富山県富山市の成人を対象とした伊藤³⁾の研究及び富山県高岡市の高校生対象とした森ら⁴⁾の研究に倣い調査・分析を行った。まず、富山県氷見市の高校生が誇りに思う源泉を抽出するために、氷見市および高岡市の高校3校を対象にプレアンケート調査を行った(2章)。次に、プレアンケート調査で抽出した源泉を誇りに思う度合い、シビックプライド、将来の定住意識を明らかにするために、氷見市と高岡市の高校6校を対象に本アンケート調査を行った。この結果を用いて、回答の傾向を単純集計で把握し、因子分析を行い、源泉とシビックプライドの構成要素を明らかにした(3章)。その後、共分散構造分析を用いて、源泉とシビックプライド及び将来の定住意識の関係を明らかにした(4章)。これらの結果を用いて、高岡市の結果⁴⁾と比較も行い考察した(5章)。

2. 氷見市のシビックプライドの源泉

2.1. プレアンケート調査の方法

氷見市の高校生におけるシビックプライドの源泉を抽出するために、プレアンケート調査を行った。プレアンケート調査の概要を表1に示す。調査対象は、氷見高校、高岡

高校、福岡高校の計3校に通学する高校1及び2年生とした。いずれも県立高校である。氷見市唯一の高校である氷見高校、氷見市と経済的結び付きが強く、氷見市在住者の半数以上が進学する高岡市に所在する高岡高校と福岡高校の計3校を調査対象とすることで、氷見市に居住する高校生の源泉を抽出できると考えた。

調査方法は、WEBと紙を併用して実施した。WEBアンケート(Microsoft Forms)は、アンケートサイトにアクセスするためのQRコードを記載した用紙を配布し調査を実施した。調査項目は、①属性(性別・高校名など)、②将来の定住意識、③誇りに思うものである。③誇りに思うものは、伊藤の研究³⁾に倣い、建築物、文化施設、公園・広場等のオープンスペース、場所・地区、交通機関、文化芸術、イベントや祭り、産業、スポーツ、自然、食、(特)産物、歴史遺産、有名人を質問の要素として設定した。各要素について、「あなたが誇りに思う氷見市の(各要素名)を教えてください(複数回答可・自由記述)」と設問を設定した。

2.2. 氷見市の高校生が誇りに思う源泉

プレアンケート調査で得た氷見市に居住する高校生の誇りに思う源泉の抽出結果を表2に示す。括弧内の数字が回答数で、太字で示した源泉が今回のプレアンケート調査で抽出したものである。回答数が多い源泉を取り上げると、ハンドボール<スポーツで131件>や、寒ブリ<(特)産物で83件、食で81件>、漁業<産業で72件>であった。氷見高校は、2023年の全国高校総合体育大会ハンドボール男子で3位になっており、ハンドボールが氷見市を代表するスポーツであるため、源泉の回答数が多かったと考えられる。さらに、第一次産業である漁業や寒ブリなどの回答数が多く、農山漁村地域の特徴が反映された結果となった。この結果を基に、氷見市の高校生が特に誇りに思う源泉を抽出する。抽出の基準は、各要素で最も回答数が多いものに加え、既往研究³⁾の源泉数と同様になるように回答数の閾値を22件とした。その結果、表2の太字で示した20の源泉を抽出し、本アンケート調査に用いることとした。

3. 氷見市のシビックプライド

3.1. 本アンケート調査の方法

次に、プレアンケート調査で抽出した各源泉を誇りに思う度合い、シビックプライド、将来の定住意識を明らかにするために本アンケート調査を行った。本アンケート調査の概要を表3に示す。調査対象は、氷見高校、高岡高校、

表1 プレアンケート調査の概要

| | |
|------|---|
| 調査期間 | 2021年9月15日から2021年9月24日 |
| 調査対象 | 氷見市および高岡市の高校3校 (氷見高校、高岡高校、福岡高校に通学する高校1,2年生) |
| 実施方法 | WEBと紙を併用して実施した。 WEBアンケートは回答QRコードを印刷した調査票を配布した。 |
| 配布数 | 配布数：1190部 (氷見高校 350部/高岡高校 560部/福岡高校 280部) |
| 回答数 | 回答数：575件(回答率：40.7%) (WEBが493件、紙が82件) 氷見市に居住する高校生の回答：158件 |
| 調査項目 | ①属性(性別・高校名など) ②将来の定住意識 ③誇りに思うもの(自由記述・複数回答可) |

高岡南高校、福岡高校、高岡工芸高校、高岡商業高校に在学する高校1,2年生とした。調査方法は、WEBアンケート（Microsoft Forms）にアクセスするためのQRコードを記載した用紙を配布し調査を実施した。

調査項目は、I. 属性（性別、高校名など）、II. 源泉を誇りに思う度合い、III. シビックプライド尺度、IV. 将来の定住意識である。II. 源泉を誇りに思う度合いに関しては、源泉の抽出結果（表2）を用い、「以下の要素それぞれについて、氷見市民として誇りに思う度合いを教えてください」と設問を設定し、6段階（誇りに思う、やや誇りに思う、どちらとも言えない、あまり誇りに思わない、誇りに思わない、知らない）で回答を得た。III. シビックプライド尺度は伊藤³⁾のものを用い、各項目について5件法（あてはまる、ややあてはまる、どちらとも言えない、あまりあてはまらない、あてはまらない）で回答を得た。

また、回答の精度を高めるためにデータスクリーニングを行った。森ら⁴⁾の研究に倣い、アンケート回答時間が2分30秒以下のもの、シビックプライド尺度の設問に対してすべて同じ回答をしているもののいずれかに当てはまる回答を削除した。その結果、199件のうち187件を分析対象とした。

表2 源泉の抽出結果

| 要素 | 代表的な源泉 |
|-----------------|---|
| 建築物 | ひみ番屋街(29)、ふれあいスポーツセンター(24)、氷見市海浜植物園(8)、比美乃江大橋(5) |
| 文化施設 | 氷見市立博物館(18)、ふれあいスポーツセンター(13)*、ひみ番屋街(7)*、ひみ獅子舞ミュージアム(5)、柳田布尾山古墳(5)、大境洞窟住居群(5)、いきいき元気館(4) |
| 公園・広場等のオープンスペース | 朝日山公園(49)、比美乃江公園(27)、氷見市海浜植物園(4)、ふれあいスポーツセンター(4)、大浦運動公園(4)、ひみ番屋街(4) |
| 場所・地区 | 海(14)、ひみ番屋街(11)*、ふれあいスポーツセンター(4)、島尾海岸(4) |
| 交通機関 | JR氷見線(30)、バス(14)、電車(13)、高速道路(6)、車(5) |
| 文化芸術 | 獅子舞(37) |
| イベントや祭り | ごんごん祭り(88)、祇園祭り(52)、ひみまつり(33)、獅子舞(14)* |
| 産業 | 漁業(72)、定置網(4)、寒ブリ(4) |
| スポーツ | ハンドボール(131)、野球(8)、ハンギョボール(6) |
| 自然 | 海(65)、山(29)、上日寺のいちよう(4) |
| 食 | 寒ブリ(81)、魚(45)、氷見牛(22)、氷見うどん(11) |
| (特)産物 | 寒ブリ(83)、氷見牛(19)*、はとむぎ(15)、魚(11)*、稻積梅(10)、氷見うどん(9) |
| 歴史遺産 | 柳田布尾山古墳(48)、大境洞窟住居跡(29)、朝日貝塚(10)、阿尾城跡(6) |
| 有名人 | 藤子不二雄A(31)、浅野総一郎(8)、TAIHEI (Suchmos) (7)、斎藤弥九郎(6)、藤子F不二雄(6)、柴田理恵(4) |

Note. 太字で示した源泉は、今回のプレアンケート調査で抽出したものである。括弧内は回答数である。なお、回答数が3件以下のものは記載しない。また、※を付した源泉は、源泉の選定基準を満たしていないが、他の要素の同様の源泉で選定基準を満たしているものである。

表3 本アンケート調査の概要

| | |
|------|--|
| 調査期間 | 2021年10月11日～2021年11月12日 |
| 調査対象 | 氷見市および高岡市の高校6校（氷見高校、高岡高校、高岡南高校、福岡高校、高岡工芸高校、高岡商業高校に通学する高校1,2年生） |
| 実施方法 | WEBアンケート |
| 配布数 | 配布数：2446部 回収数：1340件（回収率：54.8%） |
| 回収数 | 氷見市に在住する高校生の有効回答：199件 |
| 調査項目 | I. 属性（性別、高校名など）II. 源泉を誇りに思う度合い III. シビックプライド尺度 IV. 将来の定住意識 |

3.2 本アンケート調査の単純集計結果

本アンケート調査の源泉、シビックプライド、将来の定住意識の傾向と特徴を明らかにした。単純集計の結果を表4・5、図1に示す。

本章における括弧内の数字は平均値である。源泉の平均値は、誇りに思うを5、やや誇りに思うを4、どちらとも言えないを3、あまり誇りに思わないを2、誇りに思わないを1とし、知らないの回答は用いずに算出した。その

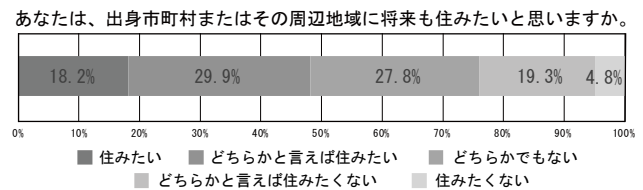


図1 将来の定住意識

表4 源泉の平均値

| 源泉 | 平均値 |
|--------------|------|
| ひみ番屋街 | 4.14 |
| ふれあいスポーツセンター | 4.33 |
| 氷見市立博物館 | 3.23 |
| 比見乃江公園 | 3.38 |
| 朝日山公園 | 3.57 |
| 海 | 4.42 |
| 氷見線 | 3.30 |
| 獅子舞 | 4.23 |
| ごんごん祭り | 4.53 |
| ひみまつり | 4.31 |
| 祇園祭り | 4.53 |
| 漁業 | 4.37 |
| ハンドボール | 4.45 |
| 山 | 3.55 |
| 寒ブリ | 4.70 |
| 魚 | 4.58 |
| 氷見牛 | 4.46 |
| 柳田布尾山古墳 | 3.43 |
| 大境洞窟住居跡 | 3.50 |
| 藤子不二雄A | 4.45 |

表5 シビックプライド尺度の項目と平均値

| シビックプライド尺度 | 平均値 |
|-------------------------------------|------|
| 氷見は住みやすいと思う | 3.92 |
| 氷見が好きだ | 4.20 |
| 氷見の雰囲気や土地柄が気に入っている | 3.98 |
| 氷見に自分の居場所はない* | 4.37 |
| 氷見にずっと住み続けたい | 3.15 |
| 氷見は大切だと思う | 4.35 |
| 氷見にいつまでも変わって欲しくないものがある | 3.97 |
| 氷見になくなってしまうと悲しいものがある | 4.02 |
| 氷見は、他のほとんどの地域より良い場所である | 3.26 |
| 氷見を批判している人がいたら、氷見を擁護する | 3.35 |
| 友人や家族に氷見の商品や製品を使うよう勧める | 2.61 |
| 氷見のスポーツチームを積極的に応援する | 3.56 |
| 地域社会の一員としての責任を真剣に考えている | 3.25 |
| 自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う | 2.84 |
| 地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができています | 2.72 |
| 自分自身は地域社会に変化を起こすことができると思う | 2.52 |
| 人生の大部分が氷見に結びついている | 3.30 |
| 「氷見の人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明する言葉である | 3.06 |
| 氷見市民であることは自分にとって重要なことである | 3.51 |
| 氷見は自分にとって特別な場所である | 4.12 |

Note. *の項目は逆転項目である。逆転処理を行って平均値を算出している。

結果、源泉の平均値は、「寒ブリ (4.70)」が最も高く、「魚 (4.58)」、「ごんごん祭り (4.53)」、「祇園祭り (4.53)」と続いた (表4)。

シビックプライド尺度の平均値は、あてはまるを 5、ややあてはまるを 4、どちらとも言えないを 3、あまりあてはまらないを 2、あてはまらないを 1として算出した。シビックプライド尺度の平均値は、「氷見市に自分の居場所はない (4.37)」が最も高く、「氷見は大切だと思う(4.35)」、「氷見が好きだ (4.20)」と続いた (表5)。

将来の定住意識は、「住みたい」と「どちらかと言えば住みたい」の肯定的な意見の割合が、48.1%と約半数を占めているため、氷見市は将来の定住意識が高い高校生が多い傾向にあることが分かった (図1)。

4. 源泉及びシビックプライドの構成要素

4.1. 源泉の因子分析

20の源泉の誇りに思う度合いの回答結果を基に、因子分析を行い、源泉の因子を明らかにした。なお、各源泉の設問に対して「知らない」という回答は、誇りに思う度合いの他の回答と同じ尺度で点数化することは適切でないと考えた。したがって、「知らない」の回答を欠損値とみなし、リストワイズ削除をして因子分析を行った。まず、20項目の相関行列の妥当性を確認するために、Kaiser-Meyer-Olkin (以下、KMO) の標本妥当性の測度の検討を行った結果、KMOが0.90となり、因子分析の結果が妥当だと判断した。1回目の因子分析(最尤法・無回転)の結果、「ハンドボール」と「ふれあいスポーツセンター」の因子負荷量が0.30以下と低い値だったため、削除し、再度因子分析(最尤法・無回転)を行った。その結果、すべての項目で0.30以上の因子負荷量が算出されたため、最終結果とした。その源泉の因子分析結果を表6に示す。因子1は、魚や寒ブリ、漁業などの魚や海の源泉で構成されているため、「魚・海」とした。因子2は、祇園祭りやごんごん祭り、ひみまつりなどの祭に関する源泉で構成されているため、「祭」とした。因子3は、比見乃江公園や朝日山公園、氷見線などの公園や交通機関に関する源泉で構成されているため、「公園・交通」とした。因子4は、柳田布尾山古墳や大境洞窟住居群などの歴史や文化に関する源泉で構成されていることから、「歴史・文化」とした。

4.2. シビックプライドの因子分析

次に、シビックプライドの構成要素を明らかにするために因子分析を行った。KMOを確認すると、0.90となり、因子分析の結果が妥当だと判断した。1回目の因子分析(最尤法・無回転)の結果、「氷見に自分の居場所はない」の項目の因子負荷量がすべての因子で0.30以下と低い値だったため、削除し、再度因子分析を行った。2回目の因子分析(最尤法・無回転)を行い因子負荷量がすべての因子で0.30以上の項目があったため、最終結果とした。シビックプライドの因子分析の結果を表7に示す。既往研究⁴⁾のシビックプライドの因子分析では、因子数が4となっ

ており、本研究結果とは異なるが、「愛着」と「参画」「持続願望」の因子において因子負荷量の上位2項目が本研究における因子分析と同様の結果となった。したがって因子名は既往研究⁴⁾に倣い、因子1を「愛着」、因子2を「参画」、因子3を「持続願望」とした。

5. 源泉とシビックプライド及び将来の定住意識の関係

源泉とシビックプライド及び将来の定住意識の関係を明らかにするために、共分散構造分析を行った。分析は森ら⁴⁾に倣って行った。源泉については、4.1の源泉の因子分析

表6 源泉の因子分析

| 項目 | 因子1 | 因子2 | 因子3 | 因子4 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| | 魚・海 | 祭 | 公園・交通 | 歴史・文化 |
| 魚 | 0.943 | -0.046 | -0.037 | -0.010 |
| 寒ブリ | 0.819 | 0.089 | 0.035 | -0.142 |
| 漁業 | 0.700 | -0.001 | 0.071 | 0.118 |
| 海 | 0.545 | 0.176 | -0.011 | 0.169 |
| 氷見牛 | 0.521 | 0.029 | 0.167 | 0.111 |
| 藤子不二雄A | 0.426 | 0.019 | 0.021 | 0.351 |
| 祇園祭り | 0.009 | 0.974 | -0.006 | -0.019 |
| ごんごん祭り | 0.037 | 0.959 | -0.075 | 0.077 |
| ひみまつり | -0.051 | 0.679 | 0.281 | -0.023 |
| 獅子舞 | 0.253 | 0.362 | 0.151 | 0.142 |
| 比見乃江公園 | 0.076 | -0.011 | 0.864 | -0.013 |
| 朝日山公園 | 0.101 | -0.016 | 0.646 | 0.152 |
| 氷見線 | -0.059 | 0.204 | 0.628 | -0.088 |
| 氷見市立博物館 | -0.061 | -0.022 | 0.608 | 0.371 |
| ひみ番屋街 | 0.318 | 0.137 | 0.386 | 0.080 |
| 柳田布尾山古墳 | -0.022 | 0.051 | 0.041 | 0.880 |
| 大境洞窟住居跡 | 0.028 | 0.053 | 0.017 | 0.861 |
| 山 | 0.209 | -0.002 | 0.156 | 0.439 |

表7 シビックプライドの因子分析

| 項目 | 因子1 | 因子2 | 因子3 |
|------------------------------------|--------|--------|--------|
| | 愛着 | 参画 | 持続願望 |
| 氷見の雰囲気や土地柄が気に入っている | 0.867 | -0.054 | -0.017 |
| 氷見が好きだ | 0.835 | -0.05 | 0.113 |
| 氷見は住みやすいと思う | 0.780 | -0.001 | -0.138 |
| 氷見にずっと住み続けたい | 0.685 | 0.058 | -0.091 |
| 氷見は自分にとって特別な場所である | 0.636 | 0.06 | 0.18 |
| 氷見市民であることは自分にとって重要なことである | 0.542 | 0.271 | 0.074 |
| 人生の大部分が氷見に結びついている | 0.509 | 0.043 | 0.076 |
| 氷見は、他のほとんどの地域より良い場所である | 0.483 | 0.067 | 0.234 |
| 氷見は大切だと思う | 0.401 | 0.023 | 0.392 |
| 「氷見の人」という言葉は、自分がどうい人物かをよく説明する言葉である | 0.327 | 0.258 | 0.018 |
| 自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う | -0.014 | 0.826 | -0.03 |
| 地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができています | -0.003 | 0.806 | -0.028 |
| 自分は地域社会に変化を起こすことができますと思う | 0.029 | 0.693 | -0.086 |
| 地域社会の一員としての責任を真剣に考えている | -0.035 | 0.589 | 0.243 |
| 友人や家族に氷見の商品や製品を使うよう勧める | 0.027 | 0.483 | 0.122 |
| 氷見のスポーツチームを積極的に応援する | 0.186 | 0.323 | 0.089 |
| 氷見になくなってしまおうと悲しいものがある | 0.001 | -0.01 | 0.864 |
| 氷見にいつまでも変わって欲しくないものがある | 0.121 | 0.039 | 0.684 |
| 氷見を批判している人がいたら、氷見を擁護する | 0.142 | 0.155 | 0.336 |

結果を基に、欠損値である「知らない」回答があるサンプルをリストワイズ削除せずに分析を行うため、因子ごとの因子得点の平均値を算出し、下位尺度得点として分析を行った。なお、各下位尺度得点の信頼性をクロンバックの α 係数で確認したところ、すべての因子で基準値の0.8以上であったため⁴⁾、信頼性が高いと判断した。なお、下位尺度得点を用いても源泉群すべてを「知らない」とした回答は欠損値が発生するため、欠損値の影響を補正した推定結果が得られる完全情報最尤推定法を用いた。

次に既往研究³⁾を参考に共分散構造分析の仮説モデルを設定した。源泉の各因子がシビックプライドの各構成要素に影響し、シビックプライドの「愛着」が将来の定住意識に関係するという仮説モデルを設定した。

以上の仮説モデルを基に、共分散構造分析を行った。パスが5%有意を満たすように探索的に推定を行った。最終的な結果を図2に示す。四角形で示されているものが観測変数、楕円で示されているものが潜在変数である。なお、左に並ぶのが源泉の因子で、中央下部にシビックプライドの構成要素、中央上部が将来の定住意識、右にシビックプライド尺度の項目が並ぶ。影響がある項目同士が矢印で結ばれており、線の太さは有意水準を意味する。矢印に付されている数字は関係の強さ意味しており、誤差変数は省略した。モデルの適合度を表す指標はRMSEA=0.090, GFI=0.769であった。どちらの適合度も基準(RMSEAは0.050以下, GFIは0.9以上)を満たさなかったが、既往研究⁴⁾に倣い、全変数に有意なパスを引けていることから、構成要素間の関係の大筋を捉えていると判断した。

以下、本項では括弧内の数字はパス係数を示す。まず、源泉とシビックプライドの構成要素間の関係を見ると、「魚・海」(0.316)と「公園・交通」(0.395)から「愛着」に向けたパスが確認された。また、「歴史・文化」(0.166)から「参画」に向けたパスが確認された。さらに、「祭」(0.187)と「公園・交通」(0.220)から「持続願望」に向

けたパスが確認された。シビックプライドの構成要素間の関係は、「愛着」から「参画」(0.412)、「参画」から「持続願望」(0.304)へのパスが確認された。シビックプライドと将来の定住意識の関係は、「愛着」から「将来の定住意識」(0.586)へのパスが確認された。したがって、氷見市の高校生においては、「魚・海」と「公園・交通」から「愛着」を高め、その結果、将来の定住意識を高めるといふ流れが明らかになった。

6. 総合考察

共分散構造分析の結果から、氷見市の高校生の将来の定住意識形成には、シビックプライドの「愛着」が重要であることが明らかになった。さらに「愛着」は他のシビックプライドの構成要素にも影響しており、シビックプライドの醸成においても「愛着」が重要であることが考えられる。

また、「愛着」は「魚・海」と「公園・交通」の源泉により醸成されることが明らかになった。したがって、「魚・海」と「公園・交通」の源泉を誇りに思う施策により、間接的に将来の定住意識を高められると考えられる。

「魚・海」は魚、寒ブリ、漁業などの源泉で構成されている。寒ブリは、「ひみ寒ブリ」と言われ氷見市を代表するブランド名であり、市外からも多くの観光客が訪れることから、漁業が氷見市を代表する源泉であることは確かである。さらに、氷見高校には、水産資源の生産・加工・販売を学ぶ海洋科学科がある。そのような氷見市の産業に根付いた教育が魚や海の源泉に対する誇りを高める一要因であると考えられる。氷見市においては、半数以上が中学校卒業と同時に、隣市の高岡市を始めとした他市の高校へ進学するため、多くの学生が氷見市から出る前の中学校において地域の産業を学ぶ地域教育を強化する必要があると考えられる。

「公園・交通」は比見乃江公園や朝日山公園、氷見線などで構成されている。比見乃江公園は、観光拠点であるひ

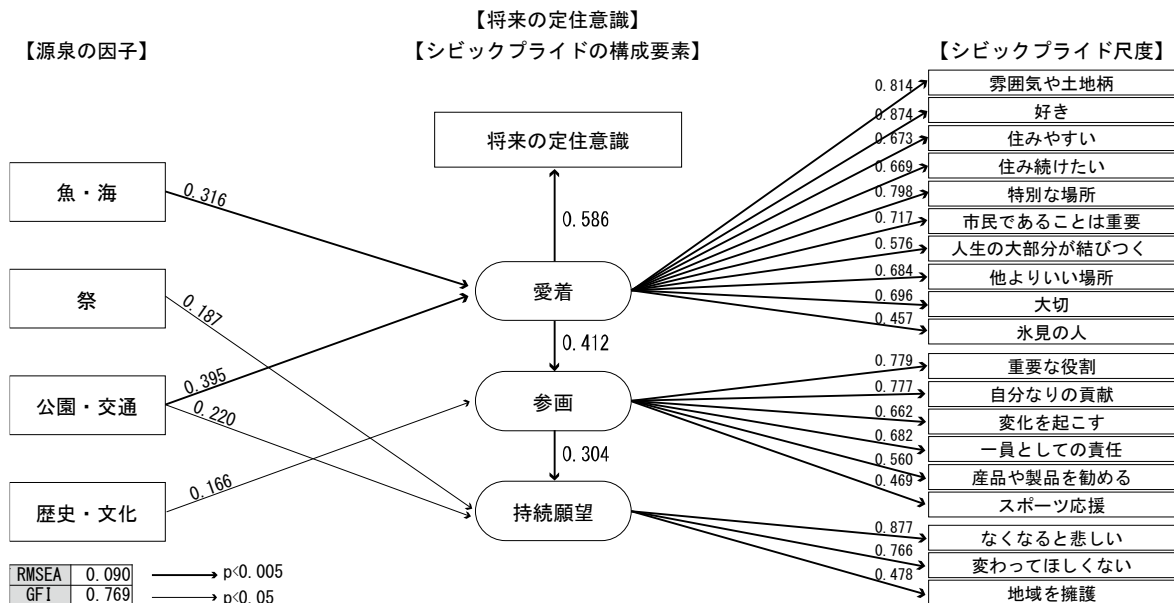


図2 共分散構造分析の結果

み番屋街に隣接する海岸を見渡せる公園であり、多くの観光客が訪れる。朝日山公園は氷見高校に隣接する公園で、氷見市街と富山湾を一望できる公園であり、氷見高校生が日常的に利用している。なお、鈴木¹⁵⁾は、公園を始めとする地域風土との接触が地域愛着を醸成する可能性を示した。したがって、現在ある高校生が日常的に利用している公園を保全しつづけることが重要であると考えられる。氷見線は、隣市の高岡市をつなぐ公共交通機関であり、氷見市から高岡市に通学する高校生が日常的に利用している。氷見線は2022年度の輸送密度（1キロ当たり一日平均利用者数）が2千人を超えており赤字路線の存続を協議する国の基準である1千人を上回る数値ではあるが、将来的に基準を下回る可能性が高く廃線する可能性もあるとされている¹⁶⁾。したがって、氷見線を存続することが氷見市の高校生の愛着形成の観点でも重要であると考えられる。

次に、氷見市の隣市である富山県高岡市の研究⁹⁾と比較し考察する。共分散構造分析の結果を比較すると、将来の定住意識に影響を与えるシビックプライドの構成要素がどちらも「愛着」である。また、両市で「愛着」に影響を与える源泉が異なる。氷見市は、「魚・海」と「公園・交通」の源泉が影響を与えたのに対し、高岡市は公園や山で構成される「地域環境」と、銅器や鋳物で構成される「文化・産業」が影響を与えた。公園に関する源泉が愛着形成に影響を与えた点については共通しているが、氷見市では魚や海の源泉、高岡市では伝統的な文化や産業の源泉が影響を与えている点で異なる。氷見市は農漁村地域であるのに対し、高岡市は、文化創造都市であり、伝統的な文化や産業が多く伝承されている都市である¹⁷⁾。したがって、地域特性により高校生の愛着形成に影響を与える源泉が異なること示唆された。そのため、高校生の将来の定住意識を高めるための施策は、地域ごとに異なる施策を行う必要があると考えられる。

7. おわりに

本研究では、農漁村地域の富山県氷見市の高校生を対象にアンケート調査を行い、源泉とシビックプライド及び将来の定住意識の関係を明らかにした。

まず、氷見市の高校生が誇りに思う源泉の因子分析から、「魚・海」、「祭」、「公園・交通」、「歴史・文化」の4因子が抽出された。さらに、シビックプライドの因子分析からシビックプライドの構成要素として「愛着」、「参画」、「持続願望」の3因子が抽出された。

次に、源泉とシビックプライド及び将来の定住意識の関係を明らかにするために、共分散構造分析を行った。その結果、シビックプライドの「愛着」が将来の定住意識を高め、愛着は「魚・海」と「公園・交通」の源泉により醸成されることが明らかになった。

さらに、氷見市の隣市である高岡市の既往研究⁹⁾との比較より、地域特性によって愛着に影響を与える源泉が異なることが示唆された。加えて、氷見市の高校生においては、

地域の産業を学ぶ教育の強化や、今ある公園の保全、公共交通機関の存続といった施策が間接的に将来の定住意識を高めることを示唆された。

本研究は、農漁村地域である氷見市の高校生を対象とした調査であり、地域愛着の傾向や高校生が誇りに思う源泉の傾向が異なる地域でも同様の結果得られるかは定かではない。しかし、農漁村地域の高校生の定住意識を高めるためのメカニズムを明らかにした点において一定の研究の意義があると考えられる。農漁村以外の地域特性を持つ地域との比較分析を行う必要がある。

謝辞

本研究の調査にあたり、氷見高校、高岡高校、高岡南高校、福岡高校、高岡工芸高校、高岡商業高校にご協力いただきました。心から感謝いたします。また、本研究は令和3年度とやま呉西圏域調査研究事業補助金の助成をうけたものです。

【参考文献】

- 1) 伊藤香織 (2017). 都市環境のよみにシビックプライドを高めるか今治市を事例とした実証分析. 都市計画論文集, 52(3), 1268-1275.
- 2) 牧瀬稔 (2019). 日本における「シビックプライド」の動向整理. 公共政策志林=Public policy and social governance, (7), 13-26.
- 3) 伊藤香織 (2019). シビックプライドの源泉としての都市環境及び諸要素. 富山市中心市街地と富山地域を事例として. 都市計画論文集, 54(3), 615-622.
- 4) 森豪大, 藪谷祐介, & 宋俊煥 (2022). 高校生のシビックプライドの醸成要因と将来の定住意識に与える影響. 富山県高岡市に居住する高校生を対象として. 都市計画論文集, 57(3), 933-940.
- 5) 氷見市 (2023). 氷見市の人口・世帯数・人口動態. 参照日: 2023年8月24日. <https://www.city.himiyama.jp/yosei/soshiki/shimin/42802.html>
- 6) 氷見市 (2015). 氷見市人口ビジョン (概要版). 参照日: 2023年8月24日. <https://www.city.himiyama.jp/material/files/group/305shimisipolukonvisonoverview.pdf>
- 7) 谷川涼子, 古川照美, 日景静香, 清水亮, 戸沼由紀, 鈴木一宏, & 吉池信男. (2022). 中学生を対象としたシビックプライド尺度開発のための予備的検討—健康に焦点をあてて—. 日本ヒューマンケア学会誌, 15(2), 8-14.
- 8) 羽鳥剛史, 片岡由香, & 牧野太亮 (2015). 住民参加型・回覧型「思い出マップ」によるシビックプライド醸成策に関する研究. 四国中央市妻鳥町「樟の森」を対象とした取り組み事例. 都市計画論文集, 50(3), 445-450.
- 9) 田中尚人, & 堀尾和美 (2016). 小学校地域学習におけるシビックプライド涵養に関する実践的研究. Policy and Practice, 2(1).
- 10) 熊澤貴之, & 齋藤美絵子 (2012). シビックプライドを育む市民協働作品の効果. 暖簾による景観作り. デザイン学研究作品集, 17(1), 70-75.
- 11) 江崎雄治 (2007). 地方圏出身者のUターン移動. 人口問題研究, 63(2), 1-13.
- 12) 阿部正太郎, 近藤光男, & 近藤明子 (2010). 地方圏へのUターン人口移動の要因分析と促進施策に関する研究. 土木計画学研究・論文集, 27(2), 219-230.
- 13) 海野遥香, 増本太郎, 寺部真太郎, 柳沼秀樹, & 田中皓介 (2022). 若年層に着目した地域愛着・街のシンボルへの意識とUターン行動の関連性. 都市計画論文集, 57(3), 1180-1185.
- 14) 朝野照彦, 鈴木智久, & 小島隆矢 (2021). 入門共分散構造分析の実際. 講談社.
- 15) 鈴木春菜, & 藤井聡 (2008). 「地域風土」への移動途上接触が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究. 土木学会論文集D, 64(2), 179-189.
- 16) 富山新聞 (2023). 国基準超えも促進必要 城端・氷見線の輸送密度. <https://www.hokkoku.co.jp/articles/1116747>. 閲覧日: 2023年8月28日
- 17) 高岡市 (2023). 高岡市総合計画第4次基本計画, 第2章分野別計画 (地域産業). https://www.city.takayama.jp/kei/shise/sesakukeikaku/documents/kakuron_tikisangyopdf. 閲覧日: 2023年8月28日